

今日の話題



9月14日の札幌ドーム。プロ野球北海道日本ハムの田中賢介選手が九回代打でセンター前に鮮やかな安打を放った。

手にしていたのは、試合前から贈られたばかりの道産ダケカンバ製バット。日本のプロ野球公式戦で初めて使われた。試作に携わった道立総合研究機構林産試験場（旭川市）の秋津裕志さん(59)は

「ダケカンバという注文もつい

「やわらかい」

のため、秋津さん

ネット裏席からの瞬間を見届けた。

標高の高い、厳しい環境下でも育つ。漢字なら岳樺。表皮が薄い紙のように剥がれるから草紙樺

の別名もある。資源は豊富だが、虫の食害痕が現れやすい上、成長すると幹の中心部が濃い褐色になるため、大半がチップにされる。

秋津さんが有効活用の想を得たのは2年前。京都大の研究者がギ

ターに加工したところ、音響特性が輸入材のハードメープル（サトウカエデ）に近いという結果が出た。メープルは今やバット材の主流。ギターに向いているならバットにもーというわけだ。

昨年秋季には試作に動きだし、複数のプロ選手の試打を経て、ついに今年8月、練習で使った田中選手的眼鏡にかなった。ただ、「軽

らは密度が高い重めの角材を選ん

で10本を仕上げた。

田中選手はこれを引退まで使い

続け、5安打を放った。気になる

のは、バットのこれから。秋津さんによると、来季使ってくれるチームの後輩を田中選手が探しているそうだ。デビューしたてのダケ

カンバ製バット。こちらは現役続行を望みたい。（石田 悦啓）